

令和7年8月13日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の（＋）は多発要因、（－）は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が7月下旬～8月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値（過去10年の平均値）を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ（※）の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画（令和6年3月版）



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (7月下旬～8月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	いもち病 (穂いもち)	並	発病穂率：やや多【0.04%/0.03%】（＋） 気象予報：気温高（－）降水量並か少（－）	17
	紋枯病	やや多	発病度：やや多【2.79/1.18】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（－）	19
	ごま葉枯病	多	発病度：多【4.80/1.76】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（－）	18
	ヒメトビウンカ	やや多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：並【49.93頭/40.18頭】 気象予報：気温高（＋）	21
	大型斑点米カメムシ類	やや多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：並【2.06頭/1.74頭】 気象予報：気温高（＋）	21
	カスミカメムシ類	やや多	本田すくい取り捕獲成幼虫数：並【0.86頭/1.11頭】 気象予報：気温高（＋）	21
サツマイモ	ナカジロシタバ	多	寄生幼虫数：やや多【0.60頭/0.32頭】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	22
	イモキバガ (イモコガ)	並	寄生幼虫数：やや少【0.20頭/0.58頭】（－） 被害葉率：並【2.40%/5.30%】 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	－
ラッカセイ	褐斑病	やや少	発病度：やや少【5.10/11.03】（－） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（－）	－

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (7月下旬～8月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
夏秋トマト	黄化葉巻病	並	発病株率：並【0.00%/0.28%】 タバココナジラミ成虫寄生株率：並【0.00%/0.88%】	<u>31</u>
	オンシツコナジラミ	並	成虫寄生株率：並【0.00%/2.50%】 気象予報：日照時間多（－）降水量並か少（＋）	<u>33</u>
	タバココナジラミ	並	成虫寄生株率：並【0.00%/0.88%】 気象予報：日照時間多（－）降水量並か少（＋）	<u>33</u>
秋冬ネギ	ネギアザミウマ	並	寄生株率：やや少【19.20%/27.74%】（－） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>34</u>
	ネギハモグリバエ	やや少	被害度：少【0.00/2.37】（－） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>35</u>
	シロイチモジヨトウ	多	被害株率：多【5.20%/0.20%】（＋） 7月フェロモントラップ誘殺数：多【3.19頭/0.84頭】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	－
サトイモ	疫病	並	発病株率：並【6.13%/4.80%】 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（－）	－
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生程度：やや少【8.93/14.10】（－） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>42</u>
	ハダニ類	やや多	成虫寄生程度：並【8.87/14.66】 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	－
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	多	寄生幼虫数（サツマイモ）：並【0.00頭/0.00頭】 幼虫寄生株率（サトイモ）：多【12.80%/1.20%】（＋） 被害株率（夏秋トマト）：並【0.00%/0.00%】 〃（秋冬ネギ）：並【0.00%/0.00%】 7月フェロモントラップ誘殺数：やや多【8.58頭/6.53頭】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>46</u>
	タバコガ類	多	7月フェロモントラップ誘殺数 オオタバコガ：多【3.67頭/1.66頭】（＋） タバコガ：やや多【0.92頭/0.78頭】（＋） 幼虫寄生株率（夏秋トマト）：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>45</u>
ナシ	シンクイムシ類	並	被害果率：多【0.06%/0.00%】（＋） 7月フェロモントラップ誘殺数：少【0.70頭/1.57頭】（－） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>25</u>
	ハマキムシ類	並	被害葉率：やや少【0.00%/0.07%】（－） 被害果率：並【0.00%/0.01%】 7月フェロモントラップ誘殺数：並【1.18頭/1.54頭】 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>26</u>
	ハダニ類	やや多	成虫寄生葉率：やや多【1.58%/0.62%】（＋） 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>25</u>
温州ミカン	ミカンハダニ	やや多	成虫寄生葉率：並【4.60%/7.86%】 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	<u>28</u>

作物名	病虫害名	予想発生量	予報の根拠 (7月下旬～8月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
果樹共通	カメムシ類	並	被害果率(ナシ) : やや少【0.00%/0.09%】(－) " (カンキツ) : 並【0.00%/0.00%】 7月フェロモントラップ誘殺数: 並【1.77頭/25.35頭】 7月予察灯誘殺数: 少【4.8頭/32.9頭】(－) 気象予報: 気温高(+) 降水量並か少(+)	28

* 1 フェロモントラップ誘殺数: 1日当たりの誘殺数

* 2 予察灯誘殺数: 1か月30日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置(共通)

- (1) 病虫害は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病虫害の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病虫害に関する防除上の注意事項

- (1) 斑点米カメムシ類(イネ)

令和7年度病虫害発生予察注意報第1号「大型斑点米カメムシ類、カスミカメムシ類による斑点米発生に注意」も参照する。



- (2) 黄化葉巻病・コナジラミ類(夏秋トマト)

令和6年度病虫害発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照する。



- (3) シロイチモジヨトウ(ネギ)

令和7年度病虫害発生予察注意報第3号「シロイチモジヨトウによるネギの食害に注意」も参照する。



- (4) ハスモンヨトウ(野菜・花き共通)

令和6年度病虫害発生予報第7号P4～5「これから注意を要する病虫害」も参照する。



- (5) タバコガ類(野菜・花き共通)

令和7年度病虫害発生予察注意報第2号「オオタバコガの多発生に注意」も参照する。



- (6) シンクイムシ類(ナシ)

令和6年度病虫害発生予報第3号P4「これから注意を要する病虫害」も参照する。



Ⅱ これから注意を要する病害虫

キュウリのミナミキイロアザミウマ・キュウリ黄化えそ病

ミナミキイロアザミウマ（写真１）はキュウリ黄化えそ病の病原ウイルスであるメロン黄化えそウイルス（MYSV）を媒介する。

キュウリ黄化えそ病が発病すると、生長点付近の新葉に葉脈透化症状が現れ、その後、葉脈間の退緑や退緑斑点（写真２）が発生する。下位葉では葉全体にえそ斑点や黄化症状が発生する。果実には、まれに斑点症状が発生することがある。症状が進行すると株全体の生育が衰えて収量が大幅に減少する。

ミナミキイロアザミウマは幼虫時にウイルスに感染した植物を吸汁することで、ウイルスを保毒し、生涯にわたり伝搬する。メロン、スイカ、キュウリ等のうり類の他、多くの作物、雑草に寄生し、殺虫剤に対する抵抗性が発達している難防除害虫である。



写真1 ミナミキイロアザミウマ成虫
（体長は雌が1.2～1.4mm、雄が0.9～1.0mm）



写真2 キュウリ黄化えそ病発病株の新葉に現れた退緑斑点（日光に透かすと見やすい）

<防除対策>

1 定植前の対策

- （１）施設内への侵入を防ぐため、開口部に細かい目合いの防虫ネットを展張する。
- （２）苗を介したほ場への持ち込みを防ぐため、育苗床での防除を徹底する。
- （３）光反射資材によるマルチ等の活用により、施設内への侵入を防止する。
- （４）マルチの敷設により、土中での蛹化を防ぐ。

2 定植後の対策

- （１）青色の粘着テープにより成虫を誘殺する。
- （２）天敵（スワルスキーカブリダニ、ククメリスカブリダニ、リモニカスカブリダニ、タイリクヒメハナカメムシ等）を放飼する。ミナミキイロアザミウマの生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。
- （３）発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に表を参考に薬剤散布等を実施する。
- （４）キュウリ黄化えそ病の発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出し、埋没等により適正に処理する。

3 ほ場周辺の対策

- （１）定植前から栽培期間を通じて、ほ場周辺の雑草を除去する。

4 次作に向けた対策

(1) 施設栽培においては、栽培終了後に蒸し込み処理を行う。

表 キュウリのアザミウマ類に対する主な登録農薬（令和7年8月6日現在）

IRAC コード ※1	農薬の名称	希釈倍数 使用量	使用方法	使用時期	使用回数
1A	バイデートL粒剤	1～2.5g/株	株元処理	育苗期	1回
1B	オルトラン粒剤	3～6kg/10a (1～2g/株)	作条散布又は植穴処理	定植時	1回
1B	ジェイエース粒剤	3～6kg/10a (1～2g/株)	作条散布又は植穴処理	定植時	1回
3A	アグロスリン水和剤	1,000 倍	散布	収穫前日まで	5回以内
3A	アグロスリン乳剤	1,000 倍	散布	収穫前日まで	5回以内
4A	アドマイヤー1粒剤	1～2g/株	植穴又は株元土壌混和	定植時	1回
4A	スタークル/アルバリン粒剤	2g/株	植穴土壌混和	定植時	1回
4A	ダントツ粒剤	1～2g/株	株元処理	育苗期後半	1回
		2g/株	植穴処理土壌混和	定植時	
4A	ベストガード粒剤	1～2g/株	植穴処理 土壌混和	定植時	1回
4A	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000～10,000 倍	散布	収穫前日まで	3回以内
4A	アドマイヤーフロアブル	4,000 倍	散布	収穫前日まで	3回以内
4A	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	2,000 倍	散布	収穫前日まで	2回以内
4A	ダントツ水溶剤	2,000～4,000 倍	散布	収穫前日まで	3回以内
4A	ベストガード水溶剤	1,000～2,000 倍	散布	収穫前日まで	3回以内
4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000 倍	散布	収穫前日まで	3回以内
5	スピノエース顆粒水和剤	5,000 倍	散布	収穫前日まで	2回以内
5	ディアナSC	2,500～5,000 倍	散布	収穫前日まで	2回以内
6	アグリメック	500～1,000 倍	散布	収穫前日まで	2回以内
6	アフーム乳剤	2,000 倍	散布	収穫前日まで	2回以内
13	コテツフロアブル	2,000 倍	散布	収穫前日まで	3回以内
15	カスケード乳剤	2,000～4,000 倍	散布	収穫前日まで	4回以内
15	デミリン水和剤	1,000 倍	散布	収穫前日まで	2回以内
28	プリロッソ粒剤オメガ	2g/株	株元散布	育苗期後半 ～定植時	1回
28	ベリマークSC	400 株当り 10～20L (1 株当り 25～50mL)	かん注	育苗期後半 ～定植当日	1回
30	グレーシア乳剤	2,000 倍	散布	収穫前日まで	2回以内
UN	プレオフロアブル	1,000 倍	散布	収穫前日まで	2回以内

※1 I R A C（殺虫剤抵抗性対策委員会）コード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

注1 天敵の放飼と薬剤散布（殺菌剤を含む）とを併用する場合は、日本生物防除協議会ホームページの「[天敵等に対する農薬の影響目安の一覧表](#)」を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。



注2 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果 (水稲・夏秋トマト・果樹：7月下旬、サツマイモ・ラッカセイ・秋冬ネギ・サトイモ：8月上旬)

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(穂いもち)	発病穂率(%)	0.04	0.03	0.01	
	紋枯病	発病度	2.79	1.18	1.56	
	縞葉枯病	発病株率(%)	1.03	0.84	0.40	
	ごま葉枯病	発病度	4.80	1.76	2.20	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	1.11	0.46	2.46	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.97	0.08	0.06	
	コブノメイガ	上位2葉被害率率(%)	0.00	0.00	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.43	3.22	2.70	
	トビイロウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.02	0.00	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	49.93	40.18	114.89	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	7.69	28.50	37.06	
	クモヘリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.60	0.89	0.76	
	ホソハリカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.26	0.17	0.33	
	イネカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.99	0.60	1.83	
	シラホシカメムシ類	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.07	0.06	0.09	
	ミナミアオカメムシ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.14	0.03	0.04	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.00	0.07	0.00	
	アカスジカスミカメ	20回振りすくい取り捕獲成幼虫数	0.86	1.04	1.23	
サツマイモ (印旛、香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.60	0.32	0.00	
	イモキバガ	寄生幼虫数	0.20	0.58	0.00	
		被害葉率(%)	2.40	5.30	0.00	
	ハスモンヨトウ	寄生幼虫数	0.00	0.00	0.00	
ラッカセイ (千葉、印旛、君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	5.10	11.03	6.70	
	黒渋病	発病度	0.40	0.12	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	0.80	0.56	0.60	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	0.10	0.79	0.20	
	さび病	発病度	0.00	0.14	0.00	
	白絹病	発病株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ネギアザミウマ	寄生株率(%)	19.20	27.74	23.20	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	5.20	0.20	1.20	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.25	0.00	
夏秋トマト(印旛)	ネギハモグリバエ	被害度	0.00	2.37	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	0.00	0.28	0.40	
	タバコガ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	2.50	1.60	
サトイモ (山武、印旛、君津)	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	0.88	2.40	
	疫病	発生程度	1.60	1.88	0.40	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	12.80	1.20	7.20	
	アブラムシ	成幼虫寄生程度	8.93	14.10	11.33	
ナシ (県内全域)	ハダニ類	成虫寄生程度	8.87	14.66	9.87	
	黒星病	発病率率(%)	0.33	1.38	1.12	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.06	0.00	0.03	
	ハマキムシ類	被害率率(%)	0.00	0.07	0.12	
	ハダニ類	成虫寄生率率(%)	1.58	0.62	2.30	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.91	1.68	0.91	
	ニセナシサビダニ	被害新梢率(%)	0.00	0.27	0.00	サビ症状
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.09	0.27	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.64	0.38	0.16	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率(%)	4.60	7.86	2.40	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	0.76	4.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.28	0.20	

トラップ月間誘殺数(7月) * 種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	ニカメイガ	千葉	47.4	3.3	16.5	頭/月
		香取	33.9	22.6	0.0	
		安房	15.5	0.3	0.0	
	イネクロカメムシ	千葉	1.9	5.2	1.0	
		香取	25.2	4.0	8.7	
		安房	16.5	8.6	-	
	クモヘリカメムシ	千葉	1.9	3.9	18.4	
		香取	1.9	2.2	11.6	
		安房	43.5	4.9	-	
	ホソハリカメムシ	千葉	0.0	1.7	1.0	
		香取	1.0	2.9	8.7	
		安房	13.5	0.9	-	
	シラホシカメムシ類	千葉	1.0	-	0.0	
		香取	1.0	-	1.0	
		安房	0.0	-	-	
	イネカメムシ	千葉	174.2	85.5	106.5	
		香取	66.8	6.8	9.7	
		安房	137.4	3.8	-	
	ミナミアオカメムシ	千葉	31.0	3.9	19.4	
		香取	0.0	0.0	0.0	
		安房	45.5	5.9	-	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	千葉	21.3	26.7	59.0	
		香取	8.7	13.4	9.7	
		安房	46.5	74.8	-	
	アカスジカスミカメ	千葉	77.4	58.2	152.9	
		香取	19.4	15.6	28.1	
		安房	561.3	249.3	-	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	1.0	15.0	19.4	頭/月
	クサギカメムシ	〃	3.9	11.5	24.2	
	ツヤアオカメムシ	〃	0.0	6.4	7.7	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	6.09	4.32	3.03	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	7.56	15.22	5.56	
	コナガ	海匝	1.09	1.31	0.23	
	ハスモンヨトウ	県内全域	8.58	6.53	9.10	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	3.19	0.84	3.09	
	オオタバコガ	県内全域	3.67	1.66	3.61	
	タバコガ	県内全域	0.92	0.78	1.31	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	0.70	1.56	2.93	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.00	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.15	0.51	0.10	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.03	1.03	1.49	
チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.65	24.86	100.82	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.04	0.17	1.20	
	クサギカメムシ	〃	0.08	0.32	1.68	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	〃	0.13	0.30	0.21	

○気象予報

8月7日気象庁発表

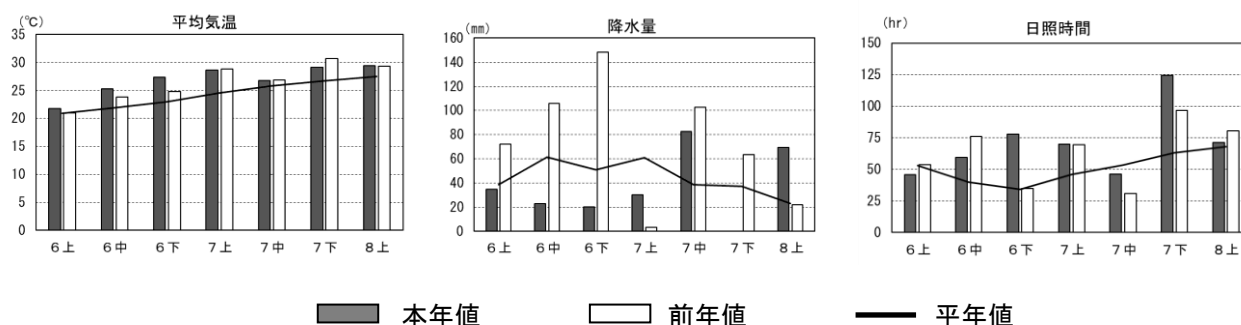
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	40	40	20
日照時間	20	30	50

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(8月9日～9月8日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(℃)	26.6	25.3	26.3
降水量(mm)	148.4	120.3	135.4
日照時間(hr)	176.8	207.8	205.8



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・ 次回の発行予定は9月19日です。
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

- ・ 県内で栽培される主要な農作物に発生する病害虫や雑草を
防除するための指針が千葉県 HP で公開されています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/bojoshishin.html>

- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

